

ていました。高校三年生の時には迷わず消防士の試験を受験しました。しかし、結果は不合格でした。

わたしはどうしても消防士の夢を諦めきれませんでした。そこで登別市が誘致してくださった日本工学院に入学して、もう一度消防士を目指すことにしました。そして入学一年目に、西胆振消防組合の職員採用試験で合格することができました。正直私は合格する自信がなく、二次試験を受けてから合格発表の日まで不安でたまりませんでした。

合格の通知が届いた時の気持ちは生涯忘れることはないと思います。

わたしは、今回合格できたのは自分一人の力ではなく、家族や友人など私を支えてくれた多くの方々のお陰だと思っています。今度は私が消防士として皆さんの生活の安全を守り、支えになれるように、日々の訓練を全力でこなし、早く一人前の消防士になれるように頑張ります。



子どもたちが誇りを感じるまちに

鎌田琢新さん(大和町)



新年明けましておめでとうございます。私は若草新生地区で年1回多くの人でにぎわうグリーンピア・サマーフェスティバルを実施しているグリーンピア商店会の事務局を担当しています。昨年は天候にも恵まれ大盛況でしたが、そこに至るまでには、例年にならない苦労がありました。

設備のリースや設置などお祭りの大部分を委託している業者が廃業し、市の補助金もなくなったため、財政と人材、両方の面で困難を極める事業となつてしまいました。

地域の人々のため、まちの活性化のためにもお祭りは絶対欠かせないものです。しかし、かえって、この厳しい環境が私たちの『やる気』に火をつけたのか、商店会理事のメンバーの答えは「なんとかしよう！絶対しなければならぬ。ここで生まれ育つ子どもたちに一つでも何か残さないと」とみんなの気持ちがひとつになりました。地域の町会も快く賛同し、厳しい経済状況にもかかわらず、各企業のみなさんからも寄付をいただき、無事、開催することができました。本当の意味での『協

働』が実現したのではないのでしょうか。

大人が一所懸命にまちの活性化に向かつてがんばっている。その背中を子どもたちにみてもらうことが、ふるさと大好きという気持ちを作っていく……。

登別にはほかに、いろんな行事がたくさんあり、いろいろなところで、いろいろな人ががんばっています。今年もそんな縁の下の一つの力としてがんばっていただけたら……、登別！最高です！



輝いて生きたいもんだ

小林正明さん(常盤町)



『町づくりは、人づくり、人づくりは文化づくり』、文化の香り高いまちづくりに寄与したい、これが私のテーマです。私だけでなく登別市文化協会の36団体2千100人余りの会員のテーマでもあります。

人生は、絶えざる自己実現の旅であるといわれますが、己の夢や志の実現を目指して、絶えず己の命の火を燃やし続ける。

そこに生き甲斐や命の火の輝きがある。

それが『輝いて生きる』ということではないかと思えます。

目的や志、夢に向かつて全身全霊を傾けて生きる姿であります。確かに今日の社会状況は不安と不透明なことがあまりにも多過ぎ、生きる意味を見い出せずに人々が悩みを深めているのは確かです。

しかし、ふるさと登別には、豊かな自然や文化遺産がたくさんあります。ふるさとを見つめ直すことによつて、心の中の郷土愛が再燃し、自己発見の芽が培われるに違いありません。そのエネルギーは趣味、娯楽にとどまらず、『なんとかしなきや』という地域フロンティア精神となり、主体的にボランティア活動に参画するという結果を生むのではないかと。

詩人サミエル・ウルマン曰く「人生のどんなところでも、気をつけて耕せば、豊かな収穫をもたらすものが、手の届く範囲にたくさんある」自分の力は、賞味期限ギリギリ、いや過ぎていくかもしれないが、今は感謝の気持ちを忘れずに社会に返すときなのだという心得で、輝きながら生きたいと思えます。